

令和5年度 第2回袖ヶ浦市文化財審議会 会議次第

日時 令和5年8月2日（水）
午後3時から

場所 袖ヶ浦市郷土博物館研修室

1 開会のことば

2 会長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議題

- (1) 飽富神社唯一社頭年中行事帳の指定について（答申）
- (2) 市指定文化財飽富神社東照宮の修理について
- (3) その他

5 報告

- (1) 国史跡山野貝塚の追加指定について
- (2) 国史跡山野貝塚現地見学会について
- (3) 千葉県指定天然記念物坂戸神社の森のき損について
- (4) その他

6 閉会のことば

根拠法令

○袖ヶ浦市文化財の保護に関する条例（抄）

第4章 市文化財審議会

第24条 文化財の保存及び活用に関し、教育委員会の諮問に答え、又は意見を具申し及びこれらに必要な調査研究を行うため袖ヶ浦市文化財審議会を置く。

第25条 審議会は、非常勤の委員7名で組織し、文化財に関する学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

第26条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第27条 審議会に会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

2 任期

令和5年4月1日から令和7年3月31日まで

(指定)

第4条 教育委員会は、市の区域内に存する文化財のうち重要なものを袖ヶ浦市指定文化財（以下「指定文化財」という。）に指定することができる。

2 前項の規定による指定をするには、教育委員会はあらかじめ指定しようとする文化財の所有者、保持者又は権原に基づく占有者（以下「所有者等」という。）の同意を得なければならない。ただし、当該文化財の所有者等が判明しない場合は、この限りでない。

3 第1項の規定により指定をするときは、教育委員会はあらかじめ第24条の規定により設置する袖ヶ浦市文化財審議会（以下「審議会」という。）に諮問しなければならない。

4 第1項の規定による指定は、その旨を告示するとともに当該文化財の所有者等に通知して行う。

5 第1項の規定による指定は、前項の規定による告示があった日からその効力を生ずる。

6 第1項の規定により指定をしたときは、教育委員会は、当該指定文化財の所有者等に指定書を交付しなければならない。

第25期 袖ヶ浦市文化財審議会委員名簿

氏 名	担当分野	備考
さそう まもる 笹生 衛	有 形 記念物	再 任 6期目
じつかた ゆうすけ 實形 裕介	有 形	初 任
たかはし まさる 高橋 克	民 俗	再 任 9期目
なりた あつひこ 成田 篤彦 (副会長)	記念物	再 任 9期目
のじり たかあき 野尻 孝明	有 形	初 任
はまな とくじゅん 濱名 徳順	有 形	再 任 2期目
やまだ つねお 山田 常雄 (会 長)	有 形 記念物	再 任 21期目

任期 令和5年4月1日から令和7年3月31日まで

議案（１） 飽富神社唯一社頭年中行事帳の指定について（答申）

令和５年５月１５日付け袖教生第４７７号にて、袖ヶ浦市文化財審議会に諮問いたしました袖ヶ浦市指定文化財の指定については、別紙案のとおりとしたいが意見を求めます。



令和5年8月2日

袖ヶ浦市教育委員会 様

袖ヶ浦市文化財審議会
会 長 山田 常雄

袖ヶ浦市指定文化財の指定について（答申）

令和5年5月15日付けにて諮問のありましたこのことについて、慎重に審議した結果、別紙の事由により下記の文化財を指定することが適当であるとの結論を得ましたので答申します。

記

- 1 名 称 あきとみじんじやゆいいつしやとうねんちゆうぎようじちよう 飽富神社唯一社頭年中行事帳
- 2 員 数 1点
- 3 種 別 有形文化財（古文書類）
- 4 所在地 袖ヶ浦市下新田1133（袖ヶ浦市郷土博物館）
- 5 所有者 飽富神社
- 6 時 代 江戸時代後期（18世紀後半）
- 7 寸法等 横帳（縦16.1cm、横23.8cm）36丁 四つ目綴じ
- 8 適用指定基準 『袖ヶ浦市文化財指定基準』（平成23年9月1日施行）
有形文化財 古文書類
（5）近世及び近代の古文書類、日記、記録等で、地域
的又は学術的価値の高いもの
- 9 指定理由 別紙のとおり

別紙

飽富神社唯一社頭年中行事帳は、飯富地区に所在する飽富神社において、江戸時代後期、18世紀後半に行われていた年中行事について記された古文書である。

本資料の成立年代は、表紙裏書に「じゅごい 従五位下のげふかがわひたちのすけあそんたかなが 深川常陸介 朝臣喬榮」とあることから、代々飽富神社の神主を務めた深川家の53代当主深川喬榮が従五位下に叙された明和7年（1770）以降に書かれたものであると推定される。

本資料は、飽富神社において行われていた年中行事の様相を知ることができるものである。また、現在も行われている行事と行われていない行事があることがわかり、現在も行われているつつがゆ 筒粥神事やおたうえ 御田植神事などの行事については、時代とともに行事の実施方法等が変化していく様子が理解されるとともに、その歴史性を裏付ける資料でもある。17世紀から18世紀にかけては、近世の社会秩序が変容してくる時期であり、この時期に飽富神社の年中行事を改めて整理し、まとめたところにも意義があると考えられる。

一方、名称に付された「唯一」という文言や本文中に描かれた陰陽道の呪符の影響が残る護符の絵、さらに巻末に「れいじんさいにつき 霊神祭日記」がつけられ、かつ作者である喬榮の父であるのりなが 猷榮が「吉田殿御免神道講師」とあることから、吉田神道の影響を受けていることがわかり、日本宗教史の流れから見ても興味深い資料である。

さらに、明治初期の神仏習合令において、それ以前のお祭りの形態が大きく改変され画一化されることが全国的に多く認められる中において、吉田神道の影響も含め、江戸時代に行われていた飽富神社に係る年中行事の内容を復元することができる資料でもあり、全国的にみても貴重である。

以上のことから、飽富神社唯一社頭年中行事帳は、近世の古文書として地域的、学術的価値の高いものであることから、袖ヶ浦市指定文化財として指定することが適当である。

以上



袖 教 生 第 4 7 7 号
令 和 5 年 5 月 1 5 日

袖ヶ浦市文化財審議会 様

袖ヶ浦市教育委員会



袖ヶ浦市指定文化財の指定について（諮問）

このことについて、下記の文化財を袖ヶ浦市指定文化財として指定したいので、袖ヶ浦市文化財の保護に関する条例第4条第3項に基づき、指定の可否を袖ヶ浦市文化財審議会に諮問いたします。

記

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 名 称 | <small>あきとみじんじゃゆいいつしゃとうねんちゆうぎょうじちよう</small>
飽富神社唯一社頭年中行事帳 |
| 2 | 員 数 | 1 点 |
| 3 | 種 別 | 有形文化財（古文書類） |
| 4 | 所在地 | 袖ヶ浦市下新田1133（袖ヶ浦市郷土博物館） |
| 5 | 所有者 | 飽富神社 |

議案（２） 市指定文化財飽富神社東照宮の修理について

令和５年５月２５日の第１回文化財審議会において現地見学いただいた、市指定文化財飽富神社東照宮の修理について、現在、建築部材等の調査を行っており、その概要について説明するので、意見を求めます。

現在の作業状況

現地から持ち帰った部材の繕い作業を実施中
８～９割完了（７月２５日現在）

今後の作業予定

８月１７日頃より、現場での部材取り付け作業開始

部材修繕写真



① 地垂木 破損状況



② 地垂木 接着状況



③ 地垂木 矧ぎ木状況



④ 木負 破損状況



⑤ 木負 補修状況



⑥ 登裏甲 補修状況



⑦ 鬼板 破損状況

報告（１） 国史跡山野貝塚の追加指定について

平成２９年１０月１３日に国史跡に指定された山野貝塚について、追加指定について地権者との同意が取れた土地について、文部科学大臣に追加指定の意見具申をいたしましたので報告するものです。

山野貝塚の追加指定について

1 今回の追加指定について

対象地番：飯富字山野3516番24（公簿面積147.00㎡）

所有者：個人

※当初指定段階で所有者の所在が不明であったが、令和2年度に本人から
当市別部署に連絡があったことから交渉を開始。

令和4年11月10日に指定の同意書をいただいた。

2 これまでの経緯及び今後のスケジュール

令和5年 6月28日 文化庁ヒアリング（千葉県文化財課でリモート）

7月14日 意見具申書を文化庁に提出（千葉県には7月7日
提出）

9月 文部科学大臣が国の文化審議会に諮問

10月 国の文化審議会から文部科学大臣に答申

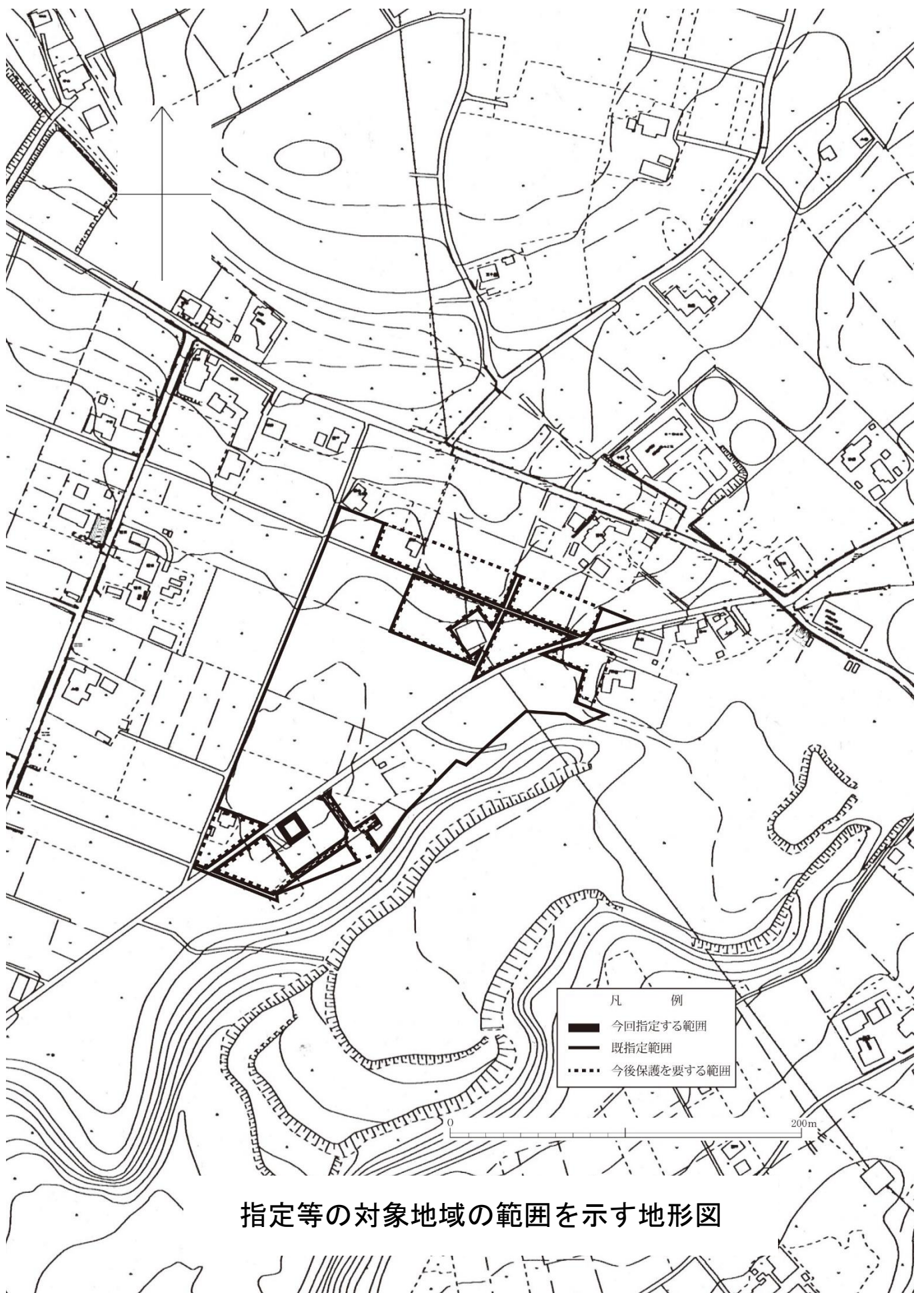
令和6年 3月 官報告示により指定

3 これまでの指定

平成29年10月13日 当初指定 20,739㎡

（35名40筆等（市道、赤道含む））

平成31年 2月26日 追加指定 760㎡（1名1筆）



指定等の対象地域の範囲を示す地形図

報告（２） 国史跡山野貝塚現地見学会について

令和５年７月１７日に国史跡山野貝塚の現地説明会を実施したのでその実施結果について報告するものです。

国史跡山野貝塚現地見学会実施報告書

【日時】 令和5年7月17日（月・祝） 午前9時～12時30分

【場所】 盤洲干潟（金田みたて海岸潮干狩り場）・山野貝塚
（集合場所 袖ヶ浦市郷土博物館駐車場）

【参加者数】 一般参加者 17名、山野貝塚ボランティア8名
合計 25名

※配布資料は別紙1を参照

【実施内容】

○盤洲干潟でのイボキサゴ採取

金田みたて海岸潮干狩り場から歩いて15～20分程度の干潟の先端付近でイボキサゴという巻貝を採取した。

干潟の先端付近で、ざるで砂をすくうと生きたイボキサゴがたくさん採取できた。

また、イボキサゴのほかにもツメタガイやアカニシなど山野貝塚から発見される貝を見つけることができた。

アクアラインを目の前にして、縄文人の気分に入ることができたと思われる。

○山野貝塚現地見学

盤洲干潟でのイボキサゴ採取後、山野貝塚の概要及び山野貝塚に散在する貝を見学し、干潟に生息していた貝と同じ貝を見つけることができました。

【一般参加者アンケート結果】 17枚配布中15枚回収

※回答内容の詳細は別添3を参照

1 性別 男8 女7

2 年齢 20代以下 3 40代 4 50代 2 60代 3 70代以上 3

3 居住場所 市内15

（蔵波台5 蔵波2 神納3 久保田1 長浦1 坂戸市場1 回答無2）

4 情報の入手先 広報誌 12 HP 1 その他 1

5 実施時間について ちょうどよい 10 長い 3 回答無 2

6 次回も参加したいか したい 12 したくない 1 どちらでもない 2

7 感想・意見

- ・普段通り過ぎていたところに貝塚があることが分かり勉強になった。今でも同じ貝が生きていることも確認でき、非常に楽しかった。
- ・とても良い企画でした。もう一度参加してみたいので再企画をお願い致します。
- ・話、資料があっても、実際に行き、体験したことが残る。
- ・貝塚と狩場の両方をたいへん楽しく体験できました。
- ・貝の種類や山野貝塚のことが知れてよかった。
- ・楽しい会でした。ありがとうございました。
- ・普段個人では行けない場所や体験できないことができたので楽しかった。
- ・企画、案内等ご苦勞様でした。山野貝塚を起点とし、鎌倉街道史跡等をめぐるハ

イキングを企画してほしいと思います。参加しますよ。

- ・盤洲干潟に縄文時代からの生きた貝が見られて感動しました。ありがとうございました。
- ・お世話になりました。職員の方々お疲れ様でした。
- ・東京湾の奥までは、個人ではあそこまで行けないので、とても楽しい体験だった。
- ・見学会の世話、ありがとうございました。大変勉強になりました。開催時期は盛夏を外して実施を希望します。
- ・話がよくわからないから、もうちょっとわかりやすく話したらいいと思う。実施時間が長すぎる。

8 山野貝塚の周知について 知っていた 9 知らなかった 6

9 山野貝塚に来訪したことがあるか ある 4 ない 11

10 これまで山野貝塚関係イベントの参加したことは
ある 2 ない 13

11 ボランティアに参加してみたいですか

したい 3 したくない 6

どちらでもない 3 無記入 3

12 現地にどのような施設があったらよいか

- ・駐車場、トイレ、あづまや、カフェ。
- ・施設は特に必要ない。
- ・平成通りから山野貝塚までの案内板。
- ・説明板

現地説明会写真



みたて海岸潮干狩り場集合風景



干潟出発風景



イボキサゴ採取風景



採取した貝の解説風景



山野貝塚概要説明風景



山野貝塚での貝確認風景

報告（3） 千葉県指定天然記念物坂戸神社の森のき損について

令和5年6月2～3日にかけての大雨等により、千葉県指定天然記念物坂戸神社の森の樹木が倒木したことに伴い、き損届の提出がありましたので報告するものです。

写

指定文化財（天然記念物）き損届

令和 5 年 6 月 1 9 日

千葉県教育委員会 様

住 所 千葉県袖ヶ浦市
坂戸市場 1, 4 4 1 番 1

所有者（管理責任者）

氏 名 宗教法人坂戸神社

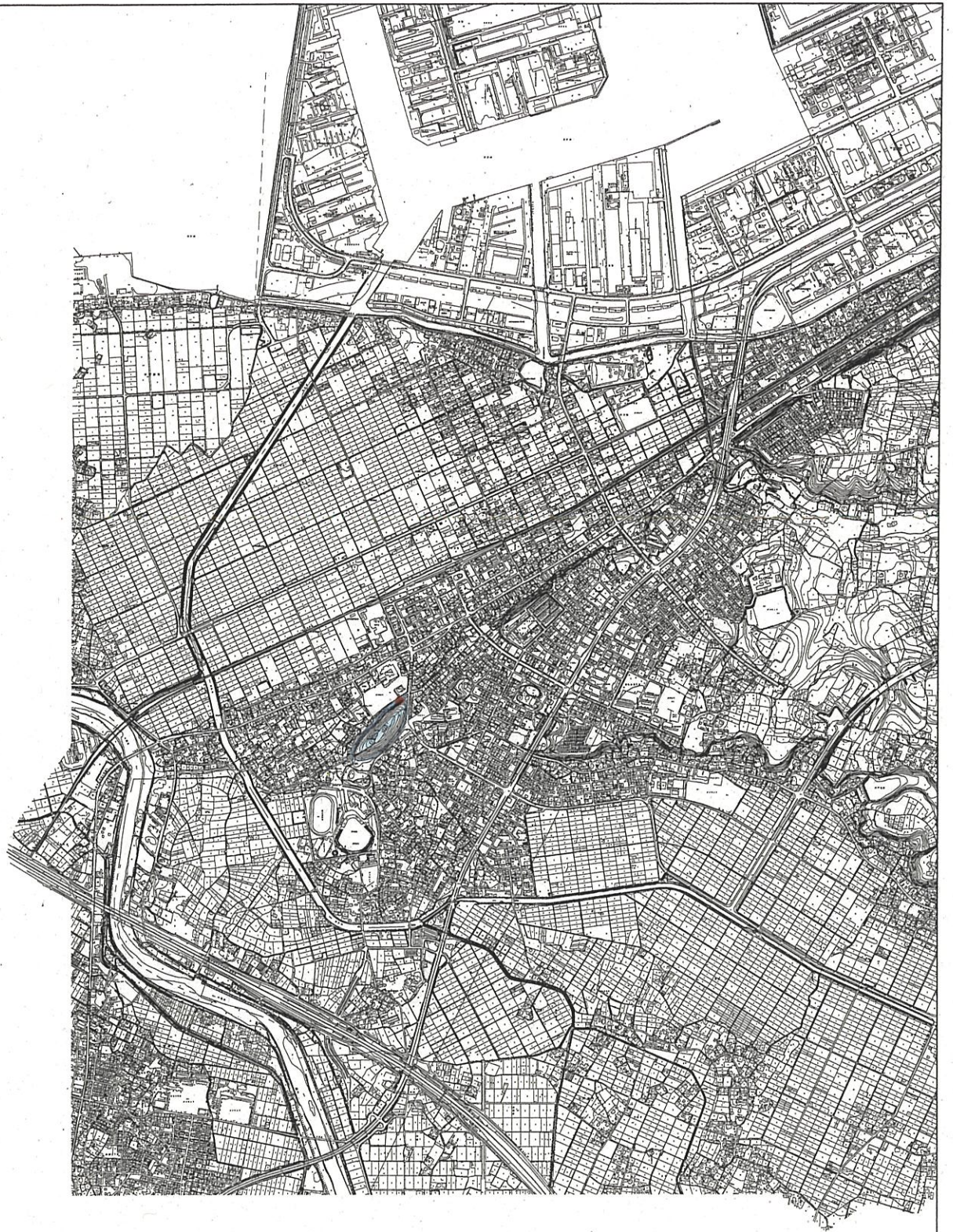
代表役員 宮司 八剣 隆



下記のとおり指定文化財（天然記念物）がき損しましたのでお届けします。

記

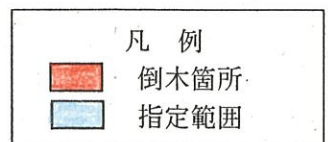
- 名称及び員数
坂戸神社の森 員数 1
- 指定年月日及び指定書の記号番号
昭和 5 0 年 3 月 2 8 日 千天第 4 8 号
- 所在の場所
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1, 4 4 1 番地 1 他
- き損日時及び場所
令和 5 年 6 月 5 日 袖ヶ浦市坂戸市場 1, 4 3 9 番地 2 7 他
- き損当時における管理の状況
通常管理
- き損の原因及び現状
令和 5 年 6 月 2 ～ 3 日の大雨等による倒木
倒木により管理者が管理する私道の 4 / 5 ほどをふさぐ
- き損の事実を知った日
令和 5 年 6 月 5 日
- き損の事実を知った後に執られた措置
市職員によって倒木周辺を囲い。その後、管理者により伐採、撤去
(伐採等終了日 令和 5 年 6 月 1 8 日)
- その他参考となる事項
き損に伴う負傷者は確認されていない。

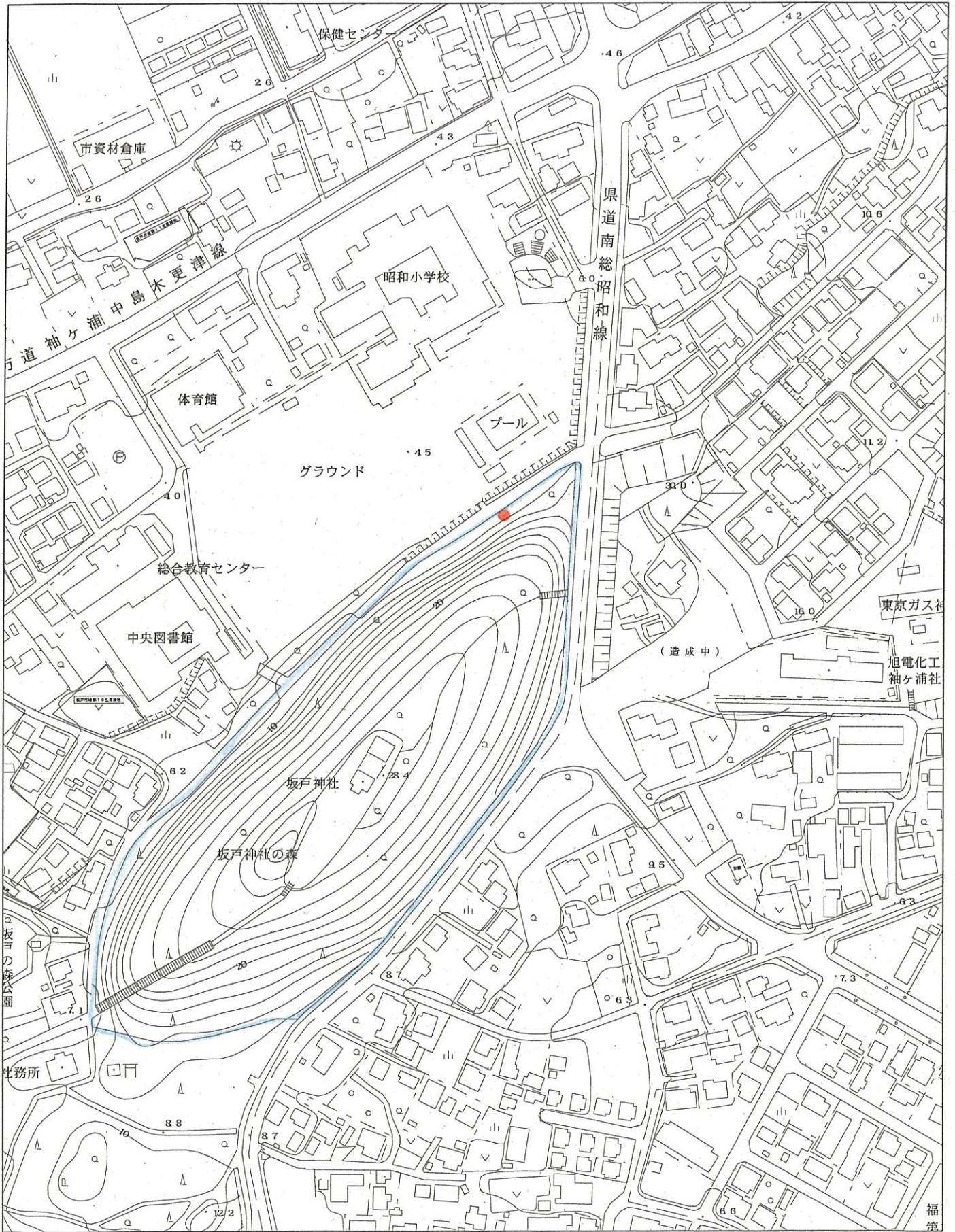


坂戸神社の森

位置図

1 : 25,000





坂戸神社の森

地形図

1 : 2,500



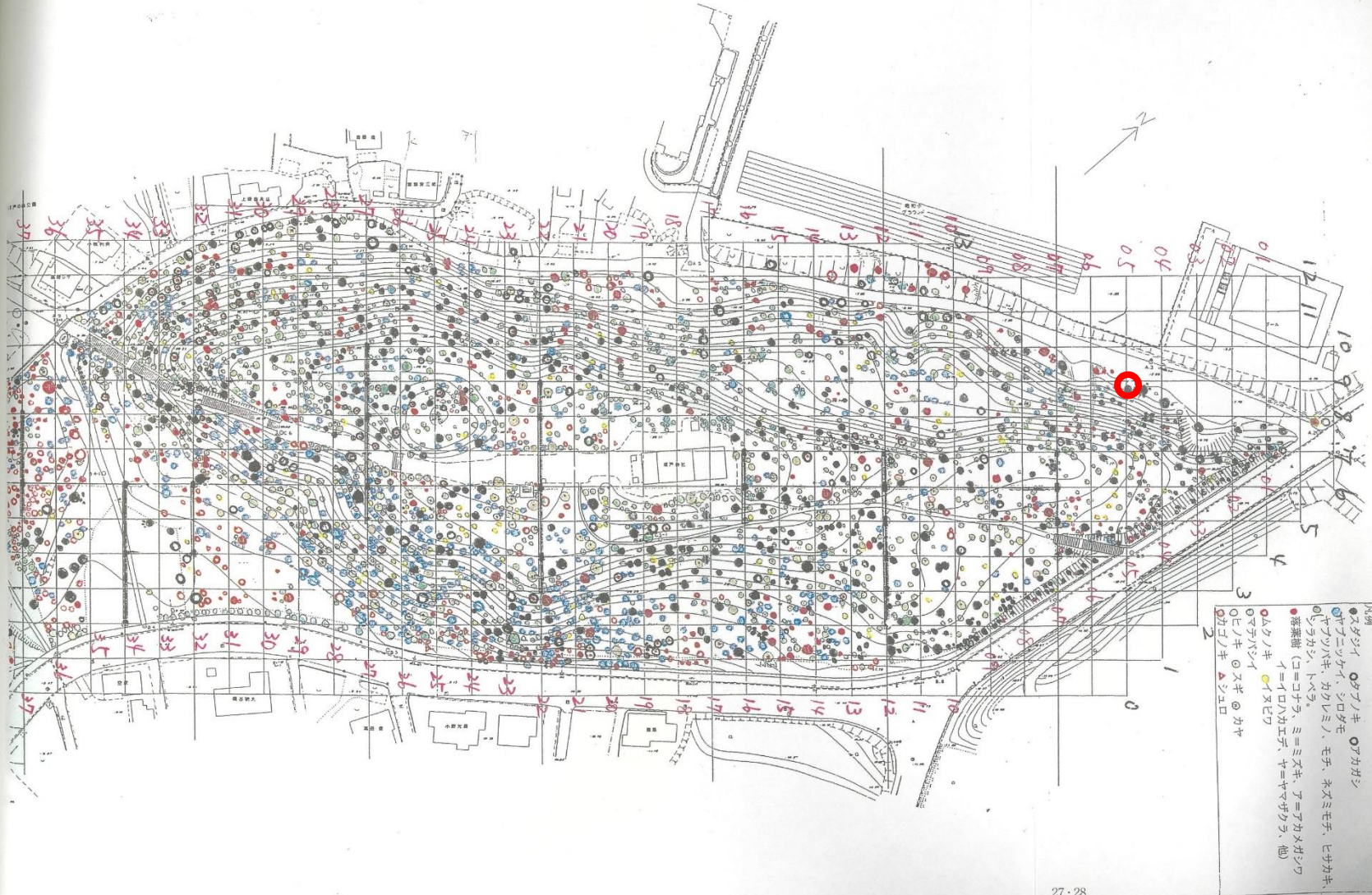
凡例	
	倒木箇所
	指定範囲

図4-1-2 坂戸神社の森樹木分布図 (1/2)



坂戸神社の森樹木分散図



坂戸神社の森倒木近景（北→）



坂戸神社の森倒木近景（北西→）



坂戸神社の森倒木根本付近（北東→）



倒木撤去後の樹木（北→）



倒木撤去後の私道復旧状況（北東→）

山野貝塚ボランティアを募集しています！

山野貝塚が国史跡に指定されてから3年後の令和2年度に、「山野貝塚ボランティア」を発足しました。

山野貝塚の保護を大きな目的として、現在20名ほどで活動を行っています。

本日の見学会にも、研修会とイベント補助という形で参加していただいています。

興味がある方がいましたら、一緒に活動しましょう！！



←山野貝塚や周辺文化財のガイド
山野貝塚や山野貝塚周辺の文化財について学習し、自分たちの言葉でガイドをします。



山野貝塚の環境整備→
月1回程度、山野貝塚の草刈りを行い、史跡の環境を整備します。



←研修会（R4年度加^か曾^{そり}利貝塚見学）
他の史跡見学やボランティアと交流するなどの研修会を行い、史跡等に対する知識や好奇心を高めます。

くにしせきさんやかいつか 国史跡山野貝塚現地見学会

ほんずひかた
～盤洲干潟イボキサゴ採取と山野貝塚見学～



盤洲干潟で採取したイボキサゴ



山野貝塚でイボキサゴが発見された状況

令和5年7月17日
袖ヶ浦市教育委員会

見学会の実施にあたって

山野貝塚は縄文時代後晩期（今から約 4,500～2,500 年前）の貝塚をとまなう集落跡です。

千葉県の東京湾岸は、日本で最も多くの貝塚が見つかっている地域であり、山野貝塚をはじめ、千葉市より南側にある、縄文時代中期以降の貝塚から最も多く発見される貝は「イボキサゴ」という直径 2cm ほどの巻貝になります。

山野貝塚では、発見された貝の約 8 割がイボキサゴになります。多く発見された貝層（貝が層状に積もったところ）の中にはイボキサゴだけが集中したところもありました。

このイボキサゴは、現在木更津市の盤洲干潟に数多く生息しています。盤洲干潟からは縄文時代の貝塚から発見される貝が生息しているだけではなく、ヨシの群落やいろいろな鳥が見られるなど縄文時代の海岸の姿を想像させてくれます。

山野貝塚は盤洲干潟から最も近くに残された大型貝塚です。

盤洲干潟でのイボキサゴの採取や干潟の観察と山野貝塚自体の見学を一緒に行うことにより、山野貝塚と海との関係や山野貝塚の重要性について考えていきたいと思えます。

※ご注意

潮干狩り場以外では漁業権対象のアサリ、ハマグリなどを持ち帰ることはできません。また、ごみを持ち帰るなど、干潟を汚さないようご協力をお願いします。

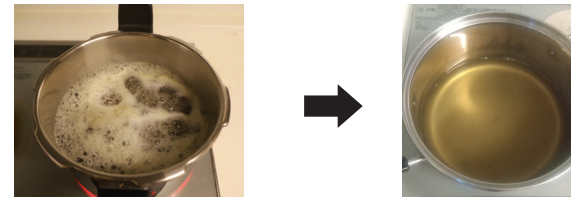
イボキサゴの利用方法

イボキサゴの採取方法、調理・加工、食べ方については、まだ明らかになっていないことだらけです。

このような中で、「だし」として利用された可能性が指摘されています。縄文人は、シカやイノシシの肉、魚、イモ、山菜などを縄文土器で煮た鍋料理を食べていたと考えられます。イボキサゴから取った「だし」が鍋料理にうま味や塩味を加えていたのかもしれませんが。

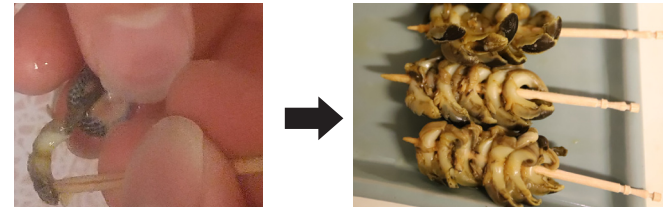
○イボキサゴの調理方法

- ①採取したイボキサゴは網に入れて海水につけ砂抜き
※持ち帰る時は貝だけの方が安全のようです。
- ②ざっと水洗いをし、縄文人のように惜しみなく使いましょ。目安は、水 1 : イボキサゴ 2 です。



イボキサゴの調理状況

- ③身を食えるときは一気に熱を加えましょ。



身を取り出している状況

身を串に刺した状況

イボキサゴの魅力

イボキサゴは大きくなっても直径2cmほどの小さな巻貝です。しかしながら、この小さな貝が大きな貝塚を形成する重要な存在となっています。

これまでに分かってきたイボキサゴの特徴は以下の点になります。

- 資源量が豊富
- 簡単にたくさん採れる
- 美味しい
- きれい



カラフルなイボキサゴ

イボキサゴは、干潟のいたるところに見られますが、潮がひいた干潟の先端の砂の中に大量に生息しています。

ざるなどを使うと簡単に大量に生きたイボキサゴを採ることができます。

縄文時代の貝塚からはイボキサゴ以外のアラムシロなどの食用にしない貝も混ざっていることから、縄文人もざるなどの道具を使って一気に採っていたことがわかります。

潮がひかない冬の海でも、舟の上から道具を使って採取していた可能性が考えられています。

盤洲干潟とイボキサゴ

盤洲干潟は、東京湾中部のおびつがわ小櫃川河口周辺に広がる干潟です。東京湾にお盆のように半円状に突き出た形をしていることから「盤洲」と呼ばれているようです。

また、小櫃川の河口に土砂が堆積した前浜干潟とヨシが生育する陸側のえんせいしつち塩性湿地がセットで残る貴重な干潟です。

東京湾の埋立てによりほぼ絶滅したと考えられていたイボキサゴは1990年代の後半に復活し、現在、干潟の先端を埋め尽くしています。

東京湾岸の縄文時代の貝塚を形成したイボキサゴの観察・採取を通して、縄文時代のことのみならず、現在の干潟や東京湾の保護についても考えていく必要があります。



盤洲干潟でのイボキサゴ採取状況（上）

採取したイボキサゴ（右）

山野貝塚と海との関係

縄文時代の海岸の風景を想像させてくれる盤洲干潟ですが、山野貝塚が営まれていた縄文時代後期から晩期にはまだ存在していませんでした。

縄文時代後期の海岸線は、現在の JR 内房線の線路付近にあったと考えられています（右下図の赤い破線）。

山野貝塚から当時の海までは、直線距離で 2kmほどになります。

山野貝塚に暮らした縄文人はどのようなルートで海に出かけていたのでしょうか？

今のところ 2つのルートを考えています。



山野貝塚と盤洲干潟の位置関係（国土地理院刊行 2万5千分の1地形図を加工）

- ①山野貝塚北側の谷を下り、奈良輪境川を經由するルート
- ②山野貝塚南側の谷を下り、袖ヶ浦公園の上池・下池、現在の浮戸川下流域にあった潟湖（湾口に発達した浅い湖、下図の青い破線）を經由するルート

ルートについては今後さらなる調査・研究が必要ですが、これらの河川等を丸木舟を引いてイボキサゴなどを取りに行く縄文人の姿を想像できませんか？



山野貝塚周辺図と山野貝塚から海への推定ルート